

熊本学園大学ソーシャルワーク実習計画(2021年度以降の入学生)

第一部社会福祉学科、福祉環境学科、子ども家庭福祉学科、ライフ・ウェルネス学科

1. 実習目標

[授業の目的・ねらい]

ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を養う。支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題(ニーズ)について把握する。生活上の課題(ニーズ)に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用した支援計画の作成、実施及びその評価を行う。施設・機関等が地域社会の中で果たす役割を実践的に理解する。総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民等との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。

[授業全体の内容の概要]

授業の目的・ねらいに基づいて、学生は社会福祉施設・機関などでの実習を行う。ソーシャルワーク実習指導担当教員は実習指導者と連携して(実習打ち合わせ会、巡回指導、事例報告会など)、学生が実践的な理解ができるように個別指導する。ソーシャルワーク実習(240時間)をソーシャルワーク実習Ⅰ(60時間)、同実習Ⅱ(90時間)、同実習Ⅲに分けて段階的に指導を行う。

[授業修了時の達成課題(到達目標)]

- ・ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を身につける。
- ・支援を必要とする人や地域の状況を理解し、生活上の課題(ニーズ)について把握することができる。
- ・生活上の課題(ニーズ)に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用した支援計画の作成、実施及びその評価を行うことができる。
- ・施設・機関等が地域社会の中で果たす役割を実践的に理解し説明できる。
- ・総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民等との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解し説明できる。

2. 実習指導者及び実習施設との連携

- ① 実習指導者打ち合わせ会を開催し、本学の実習目標等について伝え、あわせて実習施設の実態をふまえた、実習のあり方について協議する。その際、本学作成の「実習の手引」を利用し、学生・教員・実習指導者の三者共通の認識のもと、実習がすすめられるよう工夫する。
- ② 見学実習(事前訪問及び実習計画打ち合わせ訪問):実習への動機付けが高まる実習前(事前訪問)に見学実習を実施し、実習先の建物・設備、実習指導者と実習計画作成に関する意見交換、実習上の留意点などを学ぶ。また、実習数週間前(実習計画打ち合わせ訪問)には、完成した実習計画書を持参し、実習内容に関する最終確認を実習指導者を行う。
- ③ 学内実習指導の一環で、各学生が実習中に作成した個別支援計画を実習後に分析したものを発表する事例報告会を開催し、実習指導者に来校いただき、報告についての意見交換を行う。

3. ソーシャルワーク実習の展開

○ソーシャルワーク実習Ⅰ(6日間)

ソーシャルワーク実習Ⅰ(2年次・秋期集中) 一期間と目的一
実習期間:2月に1週間(6日間)
【実習目的】 ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を養う。利用者やその関係者(家族・親族、友人等)との基本的コミュニケーションや円滑な人間関係の形成、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成、利用者やその関係者(家族・親族、友人等)との援助関係の形成に関する方法・技術を身につける。
【実習内容】 利用者やその関係者(家族・親族、友人等)との基本的コミュニケーションや円滑な人間関係の形成、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成、利用者やその関係者(家族・親族、友人等)との援助関係の形成などについて実践的に学ぶ。

○ソーシャルワーク実習Ⅱ+Ⅲ(同一の実習先で24日間)

ソーシャルワーク実習Ⅱ(3年次・夏期集中) 一期間と目的一
実習期間:8月に2週間(12日間)
【実習目的】 支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題(ニーズ)について把握する。生活上の課題(ニーズ)に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用した支援計画の作成、実施及びその評価を行う。これらの方法・技術を身につける。
【実習内容】 利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題(ニーズ)の把握、支援計画の作成、支援計画の実施及び評価、多職種連携及びチームアプローチの実践的理解、当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけ、地域における分野横断的・業種横断的な関係形成などについて実践的に学び、これらの方法・技術を習得する。

ソーシャルワーク実習Ⅲ(3年次・夏期集中) 一期間と目的一
実習期間:8月～9月に2週間(12日間)
【実習目的】 施設・機関等が地域社会の中で果たす役割を実践的に理解する。総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民等との連携のあり方及びその具体的内容などについて実践的に理解する。
【実習内容】 地域における社会資源の活用・調整・開発に関する理解、多職種連携及びチームアプローチの実践的理解、施設・事業者・機関・団体等の経営の実際、施設・事業者・機関等のサービスの管理運営の実際(チームマネジメントや人材管理の理解を含む)、社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任の理解、ソーシャルワーク実践に求められる以下の技術の実践的理解などを実践的に学び、その方法・技術を習得する。